

検討委員会から府知事への提案に係る新聞記事

5月26日付 京都新聞

宇治茶を世界文化遺産に

無形と融合 新概念も

京都 検討委が府に提案



検討委員会がまとめた提案書を山田知事(右)に手渡す
金田委員長→京都市上京区・京都府庁

京都 24/5/26
挙げた。府は昨年7月、学識者や府南部の市町村長らでつくる検討委を立ち上げ、登録基準に見合う普遍的価値の明確化や構成資産について議論を重ねてきた。

宇治茶の世界文化遺産登録の可能性を探る京都府の検討委員会(委員長・金田章裕京大名誉教授)は25日、登録に向けた提案書を京都市上京区の府庁で山田啓一知事に手渡した。茶畑や茶室などの

提案書では「京都、宇治、山城は日本の喫茶文化の発祥と継承の地」として遺産登録に値すると判断。登録に際しては▽世界文化遺産として提案▽世界文化遺産と無形文化遺産(茶道)が融合した新しい世界遺産の概念を提案▽すでに登録済みの「古都京都の文化財」への追加提案への三つの選択肢を示した。府は6月、文化庁にこれらの考えを提案し、検討委でさらに議論を重ねる。(波谷哲也)

「日本茶文化の代表的資産群」

宇治茶の世界遺産登録検討委

可能性ありとし、知事に提案書

宇治茶を世界文化遺産にしようとする昨年7月に発足した、府南部の首長や学識者などで構成する「日本茶・宇治茶の世界文化遺産登録可能性検討委員会」（金田章裕委員長）は25日、現時点での提案書をまとめ、山田啓一知事に提出した。検討の結果、「可能性あり」と判断し、コンセプトを「日本茶文化の代表的資産群」に設定した。ユネスコ（国際連合教育科学文化機関）の登録に向けてはまだまだハードルが高いが、今後、文化庁とも協議しながらさらに内容を具体化していく。

世界遺産は、府内では「古都京都の文化財」は「古都京都の文化財」として京都市や宇治市（平等院・宇治上神社）、大津市などにある17の

宇治茶も世界文化遺産にしようとする昨年7月に発足した、府南部の首長や学識者などで構成する「日本茶・宇治茶の世界文化遺産登録可能性検討委員会」（金田章裕委員長）は25日、現時点での提案書をまとめ、山田啓一知事に提出した。検討の結果、「可能性あり」と判断し、コンセプトを「日本茶文化の代表的資産群」に設定した。ユネスコ（国際連合教育科学文化機関）の登録に向けてはまだまだハードルが高いが、今後、文化庁とも協議しながらさらに内容を具体化していく。

めざす登録待ちもあり、ハードルは非常に高い。なお、府内では「天橋立」が登録待ちに分類されている。

可能性検討委員会で「歴史・文化的景観」「建築・庭園等」「生産・加工・流通」の3チームに分けた調査研究部会を設置。詳細な調査を進めながら可能性をさぐり、今年3月の検討委員会に提案書を提出した。それに基づき「登録の可能性あり」と判断して、今回、検討委員会としての提案書をまとめた。

「古都京都の文化財」として追加提案の3つの選択肢を示した。提案のコンセプトは「日本茶文化の代表的資産群」宇治茶と喫茶文化の発祥と継承の地。宇治茶の位置づけを「日本のみならず世界的喫茶文化の新たな展開に貢献しており、ここに集積する資産は、人類共通の貴重な宝として将来にわたって継承すべき」とした。

登録に際しては、世界遺産としての価値を鮮明にするため、構成資産や考え方を統合するストーリー（物語性）が必要―と第1回の委員会から指摘があり、今後も世界や日本での位置づけを明確化する作業を進める。また構成資産は、現段階では「引き続き検討を進める」とした。ただ、調査部会が示した提案では、茶祖と呼ばれる宋西が開いた蓮仁寺（京都市）や茶の湯の発展の基を築いた千利休ゆかりの茶室に加え、地元関係では、煎茶道とかわりがある萬福寺（宇治市五ヶ庄）や宇治市の茶畑景観、宇治田原町の茶畑と茶農家の景観、宇治の茶商家群がリストアップされている。

この日、金田委員長から提案書を受け取った山田知事は「難しい課題を検討していたが、しっかり取り組んでいきたい」と述べた。

委員会では今後、名称から「可能性」をはずし、「検討委員会」に変更する予定。来月に文化庁に一度、提案・協議を投げ掛け、登録に向けたアドバイスを受ける。その後、検討委で課題を設定し、調査研究部会でそれを検討した上で、来年3月に再度、文化庁に提案・協議する見通し。併せて、今年11月に府内で行われる世界遺産条約40周年記念事業の最終会合でも、宇治茶の登録を世界に向けてPRする方針だ。

【本好治央】